

2) ソーシャルスキル向上指導

① 徳島中央高等学校定時制課程昼間部

○とくしま中央一座の活動について

1 目的・ねらい

(1) 目的

これまで本校で取り組んできた人形劇団「とくしま中央一座」の取り組み（H22年にスタート）を継承する形で、本年度は本事業に移行導入した。目的・ねらいは以下の通りである。

一つは、ソーシャルスキルの向上（シェアリング法により高める）。

一つは、他者を思いやる心を育む。

一つは、外部公演というボランティア活動を通して、異世代間の交流を図ると共に社会貢献を果たすことで自己有用感を獲得し、社会的存在価値を見出す。

(2) ねらい

シェアリング法を取り入れたソーシャルスキルワークにESD（Education for Sustainable Development：持続可能な社会づくりの担い手を育む教育）の理念を加え、創意工夫・試行錯誤・切磋琢磨しつつ、生徒自身が「やらされた感」のないクリエイティブな芸術性の高い人形劇団をめざす。上演の質を高め、「人形フェスティバル」や「とらまるパペットランド」での公演を目標においた活動を平素から展開する。また、未上演の保育施設や障がい者施設、公共施設へと活動の場及び交流の輪を広げ、人権やエコロジーをテーマとした人形劇に取り組むことで徳島中央高等学校のイメージアップを図り、社会とつながり協働して、文化の振興や明るい社会づくりの推進に寄与する。

2 内容

現代人形劇という芸術的表現活動を通して、図画・工作・歌・シナリオをグループワークによって創作し練り上げ、絵本童話の世界を三次元化する。完成した人形劇を保育園・小学校学童クラブ・障がい者施設・高齢者施設・図書館・書店等で上演することにより、異世代の方々や障がいのある方々との交流を図り豊かな社会性を身につける。（本年度8月全国高等学校総合文化祭人形劇部門へ出場。）

3 取組

＊人形劇を「創る」「演じる」ということ～創作過程から歓喜の上演へ～

メンバーの多くが小中学生時代に不登校を経験していることもあり、人前での表現は過度の緊張を伴うが、脳を活性させ、心を喜びで満たす体験となる。外部公演で認めの手を他者（フロア）から受けると、喜びが充実感を伴って心に迫り、魂の癒しをもたらす。それは、傷ついた精神を再生へといざない、心理療法さながらの効果を生んでいる。継続しているうちに、自己という存在に気づき、自己をメタ認知できたことで周囲の世界が見えるようになり、他者とつながることの尊さや価値を知る。これまで感受性を閉ざしてき

たメンバーたちにも、「自分も人のために役に立つことができる」といった利他心や奉仕の精神が芽生える。結果として、情熱・感謝・思いやり等々、目に見えないものに対して意識が及ぶようになり、「この世界は全ての存在が、人や物、自然界とつながって生きている」ということを理解する。（授業者はそのことを彼らに言葉で伝え、感覚的に意識が持てるように導いてきた。）童話や芸術と呼ばれるものを生み出してきた先人からの言葉や思い（想い）や世界観が時空を超えて人形劇として体現されるとき、心があらわれるような魂の発露を感じる瞬間やハートウォーミングな（心温まる）ひとときを味わうことが可能となる。授業者もメンバーたちと同様にファンタジックなロマンを感じずにはられない。そして、過去・現在・未来へと日一日と変容し続ける自らと世界を慈しむ態度を共に涵養したいと願う。小中学校時代、「学校」という場所から置き去りにされてきたメンバーたちと、上記「2」で掲げた「目的」に加え、再び「学校」という場所で学校生活を取り戻す営みとして、この授業活動を展開しているのではないかと、とも思える瞬間がある。

4 人形劇を創作する具体的な手順

- （1）原作となる絵本の選定 → 著作権の許諾を得る
- （2）キャラクターの役割分担を決める
- （3）台本づくり&読み合わせ → 原作からのシナリオ化とアレンジ
- （4）主題や作品を演じることのねらいの確認と共通理解
- （5）パペット人形の製作もしくは調達、小道具・大道具づくり、BGM・歌・効果音の製作
- （6）舞台稽古 → シナリオの修正、追加
- （7）本格的な舞台稽古 → 立ち居振る舞い、所作、舞台道具の位置の確認
※どうすれば、より面白くなるか？ 観劇する側の心に響く人形劇と成り得るのか？という視点で、セリフやパペットの動き、BGM・歌・効果音の製作を修正したり、追加を重ねていく。セリフが覚えられ、パペットの動きが体得できるまで、繰り返し練習する。
- （8）練習風景・外部公演等で上演したビデオを観直し、出来栄を検証する。

5 上演作品について

本年度は、本校通信制課程の卒業生でもある絵本作家の魚井美恵子氏（徳島市在住）の『くねくねさんぽ』（かすずき出版）『くわせろ』（金の輪社）と絵本作家 重森千佳氏の『おおかみだってきをつけて』（フレーベル館）の3冊をシナリオ化し、人形劇による上演作品とした。社会通念として忌避意識が持たれ、嫌われキャラである「ヘビ」や「オオカミ」を主人公に据え、ポジティブに逞しく生きる姿にスポットを当てた絵本童話を扱うことで、嫌われキャラが実は優しく思いやりを持つ存在であったり、不安や周囲に対する疎外感を感じて生きている存在であったりすることへの理解を求め、訪れた場所に集う観客の方々へ向けて発信するというスタンスで上演している。

6 上演日程

日 時	イベント	場 所
6 月 3 日(日)	土成子供まつり	阿波市立土成図書館
7 月 2 8 日(土)	人形劇公演	附家書店国府店
8 月 1 日(水)	人形劇上演会	小松島市小学校学童保育クラブ
8 月 8 日(水) ～ 1 0 日(金)	全国高等学校 総合文化祭出場	長野県飯田女子高等学校講堂
1 1 月 4 日(日)	本校文化祭	徳島中央高校大会議室(文化祭上演)
1 1 月 3 0 日(金)	人形劇師の方による 実技指導 講師 くすのき燕さん	徳島中央高校大会議室 (総学コース別)
1 2 月 2 2 日(土)	阿波市吉野図書館 クリスマス会	阿波市吉野図書館
1 2 月 2 3 日(日)	にんじんの会クリスマス会	しらさぎ台街づくり活動センター
1 月 1 2 日 (土)	新春人形劇上演会	鴨島児童館
1 月 1 8 日 (金)	新春人形劇上演会	青葉保育園
2 月 9 日 (土)	人形劇研修会	とらまるパペットランド
2 月 2 3 日 (土)	人形劇公演	附家書店国府店



附家書店公演 (7 / 2 8)



作家の魚井美恵子氏を囲んで (7 / 2 8)



全国高等学校総合文化祭のリハーサル（8／8）



全国高等学校総合文化祭当日の上演風景（8／9）



全国高等学校総合文化祭上演を終えて（8／9）



徳島中央高校文化祭上演風景（11／4）



人形劇師くすのき燕さんから技術を教わる（11／30） NPO法人にんじんの会の皆さんとのクリスマス会（12／23）



7 参考文献（授業で使用した図書）

- ・『くねくねさんぽ』 魚井美恵子：文 星野ミク：絵 [すずき出版]
- ・『くわせろ』（読書リレー） 魚井美恵子：文 宮本忠夫：絵 [金の環会]
- ・『おおかみだってきをつけて』 重森千佳：著 [フレーベル館]
- ・『ホリスティックに生きる～目に見えるものと見えないもの～』 今井重孝ほか 編 [せせらぎ出版]
- ・『わたしの森に』 アーサー・ビナード：文 田島征三：絵 [くもん出版]
- ・『持続可能な開発のための教育（ESD：Education for Sustainable Development）』 [文部科学省：日本ユネスコ国内委員会HPより]
- ・『地平線の彼方』 葉祥明：著 [愛育社]
- ・『ふたりはいつも』 アーノルド・ローベル：作 三木卓：訳 [文化出版局]

8 成果

- ・対人面で過度の緊張を感じていたメンバーたちが、人前で人形劇を演じることで、物怖じしない自信を獲得し、フロアの見知らぬ人々との一体感を持ち、上演後にも異世代間交流を図ることで、社交性を高めることができた。また、メンバーで協働して物事を成し得ることの大切さを学んだ。
- ・普段の会話にも支障をきたしていたメンバーが、見守りの対話活動（穏やかな口調，相手を受け入れるという姿勢）をグループワークの中で行ってきたこと，そして，人形劇の活動を通して自分に自信が持てるようになったこと等により，日常会話においてスムーズに会話ができるようになった。
- ・何事にも否定する場面や後ろ向きな発言の多い傾向を示していたメンバーの一人が，本授業活動によってポジティブな言動が増えてきた。

※グループワークの方法については，鳴門教育大学教職大学院教授 小坂浩嗣氏に師事し，インサイドワーク＝（自分自身への振り返り），アウトサイドワーク＝（他者から評価を受けての振り返り）という手法を用いている。これを，シェアリング法という。仲間と心をつなげて，絵本（ファンタジー）の世界に浸り，それを思いを語り合うという作業を繰り返して，ソーシャルスキルを磨きながら人形劇としてリアルに表現する。

9 今後の課題（これからの方向性）

- ・人形劇団としてのチーム力の向上と芸術性の高揚をめざすこと。
- ・メンバー一人一人の人格の陶冶と意思決定能力の獲得をめざすこと。
- ・メンバー一人一人が利他心を養い，人々と繋がり，将来的に社会へどのように貢献して行くのかを模索すること。
- ・授業を担う指導者の育成と，指導を行う上での専門性の向上を図ること。

○2年次「国語総合」科目における読み聞かせ絵本探求授業について

1 目的・ねらい

2年次「国語総合」科目等において，名作絵本に触れることで情操を豊かにし，生徒の自己有用感を高め，読書活動に親しむ態度を育成する。その中で，絵本作品について，テーマ・内容・登場人物・作者の思い等々をワークシートに記入させ，「生徒の気づき」を中心にフィードバックすることにより，絵本の世界を深く読み味わうとともに，物語作中に登場する主人公の生き方や考え方に思いをいたし，生徒一人一人が自らの人生を豊かに生きようとする元気や優しさを養う契機となればと考え，本事業の支援を受けて新たな取組の歩みを始めた。

2 内容

これまで、読み聞かせボランティアグループの読み手の方々と、綿密な打ち合わせを行い、生徒たちの読書体験を積み重ねる取組を通して、言語感覚を養うことや自尊感情を高めることに繋げてきた。

そして、今年度は、「読み聞かせ授業」を実施するだけでなく、取り上げた絵本作品のストーリーやテーマ、主人公やその他の登場人物の生き方や考え方についてじっくりと読み味わい、作品世界を探究させることを生徒たちに試みさせ、ワークシートをもとに作品理解及びテーマへの考察を課した授業を展開した。

以下、「3」の「取組」に、その授業活動で実施したインサイドワークによる振り返り学習とアウトサイドワークによるフィードバックした内容を記した。

3 取組

社会人の読み聞かせサークル「吉野川市よみきかせグループかぶとむし」から講師を招き、年間20回の読み聞かせ授業を実施した。対象は2年次の「国語総合」の科目および2・3年次選択科目における「古典基礎」の科目においてである。毎時間（指定された「絵本探求」の時間）、生徒は前半の時間に読み手の方からの「絵本の読み聞かせ」を聴き、後半の時間にその読み聞かせて戴いた絵本作品のテーマや内容、作者の思いをワークシートに記入し、振り返りを行うという展開で授業活動を試みた。

※ 「国語総合」絵本探求ワークシートの記録（抜粋）

	絵本のタイトル・読み手	作者・絵・訳者など
第〔 1 〕回 10月18日実施 2年次3クラス	泥かぶら 〔瑞雲社〕 読み手 藤川 眞弓さん (読み聞かせグループかぶとむし)	原作 眞山 美穂 文 くすのき しげのり 絵 伊藤 秀男
心に残るフレーズ	・旅の老人が言った「どんなときも笑顔で人の身になって思う、恥ずかしいと思わない」 ・次郎兵衛にお土産を持って来たときのセリフ「だってあたいにできることなんだもん。」 ・「汚いものはおぬしの心」という老人の言葉。 ・心についた泥。顔は変えようと思えば変えられる ・旅の老人の「いつも前を向いて、笑顔でいなさい」 ・人の身になる…。 ・旅の老人が泥かぶらに教えた三つの言葉。（その老人のお陰で泥かぶらの心が前向きに変わったから。） ・「みにくい」「きたない」	

印象に残った場面	・泥かぶらが旅人と話をして褒められたところ。 ・自尊心の覚醒，他者への思いやりや暴言暴挙の封印，笑顔を絶やさない。 ・次郎兵衛の心境の変化。泥かぶらが何をされても笑顔を絶やさないところ。 ・誰でも綺麗になれると言ったところ。 ・泥かぶらが次郎兵衛に連れて行かれるところ。 ・いじめっこに対して「心が汚い」という場面。 ・泥かぶらと旅の老人とのシーン。 ・泥かぶらが前向きになって，その後，周囲の人たちも良い方向に変わったところ。 ・次郎兵衛が泥かぶらに手紙を残す場面。 ・泥かぶらが良い行いをすることによって色んな人の心が変わって行ったところ。 ・旅の老人が泥かぶらに「ちょっとつらいぞ」と言った場面。 ・次郎兵衛が泥かぶらの前から姿を消したところ。
泥かぶらについて 思うこと	・変わる努力をされていてよい。真面目になった素直な子。 ・老人の助言によって少しずつ本当の意味で美しくなった。 ・心の強い人。明るい。優しくなった。芯が強い。 ・実際はいい人。 ・自分をいじめていた人にあんなに優しく接していける心がすごいと思った。 ・みにくく生まれた時点で終わり。 ・最初はすごくいじめられていたのに，人の役に立って仕事をするのは凄いいと思いました。 ・旅の老人に言われた通りにして，いい子になって人生が変わった。親切で優しくなった。 ・他人のために，自分が身代わりになることをためらわない心を持つ。 ・つらいことを我慢して何をされても笑顔でいる泥かぶらがすごいと思った。 ・だんだんと人に優しく，人として成長していくところがいいと思う。 ・老人から聞いた言葉を信じてそれをずっと意識して行動に移していく姿にとっても感動した。
旅の老人について 思うこと	・この人が泥かぶらに美しくなるきっかけを伝えなかったら，どうなっていたんだろうと思いました。 ・明るく親切で優しい人。 ・泥かぶらの生き方を変える発言が素晴らしいと思った。 ・変わるヒントを与えていてよい。人を素直にさせる達人。 ・優しく，本来の人としてのあり方を示した。親切。

	・神様のような人。泥かぶらにとって大切な人。 ・物語の中で一番優しい人だと思います。神様のような人だと思いました。 ・泥かぶらの生き方を変えた人。 ・そんなことでキレイになれるわけがない。根本的な解決はできていない。 ・泥かぶらに「美しくなれる」って言ったところがすごいと思いました。 ・人間の鏡だと思う。 ・長いこと生きていただけあって言っていることの意味が深いと思った。 ・泥かぶらに3つの事を教えられる旅の老人もきっと心が美しい人なのだと思います。 ・三つの大切な事を教えてあげることで泥かぶらに変わるきっかけを与えてあげたんだと思う。 ・泥かぶらが旅の老人と出会えたことで、泥かぶらの人生が大きく変わって神様からのアドバイスに思えた。
こずえについて 思うこと	・ひどいと思ったけれど、最後はいいやつだと思った。 ・ぶたれないために、泥かぶらにお願いしていたのに、最後は自分を守ってくれた泥かぶらのことが好きになったのかと思った。 ・泥かぶらに助けられて、「ありがとう」の気持ちを言葉だけでなく、自分の大切な物を渡して行動に移すのは偉いと思った。 ・(最初は)泥かぶらのことをいじめていた。 ・自分がしていたことが間違っていたと気づいていたのでよい。 ・卑怯者・小心者だが、きちんと謝ることができた。 ・泥かぶらに助けられたことで自分自身も変わった。 ・都合のいい人。 ・性格は悪いけれど根は優しい人。 ・かなり最低な人だと思いました。 ・根性叩き直してやりたい。 ・人の容姿についていう前に、自分を磨け。 ・泥かぶらにしまったことに罪悪感を持って謝りに行ったのはえらいと思った。 ・最低な子だと思いましたが、一番大事にしている櫛を渡すということは本当は優しい子だと思いました。
次郎兵衛について 思うこと	・今まで悪いことをしていたのに、最後泥かぶらを守るための行動は簡単にできることではないのでカッコいいと思った。 ・悪人？だったのに泥かぶらのおかげで自分も人の役に立つような人になろうと思っていた。 ・最終的に泥かぶらの幸せを思い、また泥かぶらの身を守るために彼女の傍を離れたのはすごいと思った。 ・泥かぶらの優しさから心を入れ替えることができて良かった。 ・根はいいが小心者。 ・心を閉ざしていたが、泥かぶらの影響により心を開き、泥かぶらを助ける決心をした。

	・本当は優しい人。 ・頭の回転が速い人。 ・泥かぶらと出会い、生き方が変わった。 ・実は、結構性格が良かった。 ・(後半) 泥かぶらのお父さんみたいな存在になった。 ・悪いことばかりしていたけれど、泥かぶらのお陰で恥ずかしくなり、悪いことをしなくなった。本当はいい人。 ・悪人なのに泥かぶらと一緒にいることで次郎兵衛の心もきれいになっていったので、いなくなった後どうなったのか気になりました。 ・悪人として仕事をしていたが、泥かぶらと出会ったことで仕事をやめるところにまで変わっていった泥かぶらに影響されていった。
色づかい レイアウト	・顔の特徴をよくとらえていた。 ・このタイトルとマッチしていた。 ・すごくカラフルだった。色々な色を使っていて表情が豊か。 ・色々な色を使っていたから見やすかった。 ・パリピ（皆で楽しい）感があった。派手。濃い色。 ・泥かぶらを中心に書いていた。 ・色とりどりで色遣いが良かった。 ・カラフルだった。 ・色が豊かで場面が分かりやすい。 ・昔っぽくて色使いが綺麗。色使いが大胆
仕掛け等… 作品に意味を持た せているもの	・いじめをなくす。 ・場面が分かりやすいように、回想や思いを具現したオノマトペ。 ・最初は、汚い・ブスといった言葉遣いだったが、最後のほうは、笑顔などいい言葉が使われていた。 ・いじめられているところから、村の人達に信頼されるまでの泥かぶらの成長。
作者の思い	・人は変われるということを伝えたいのだと思う。 ・周りにどれだけ泥かぶらの悪口を言っている人がいても、いつかは泥かぶらの良さを分かってくれる人はいるということ。 ・どんなにつらくても人は変われる。自分から変わろうとする努力。 ・人間の改善性の提示。やる気があればできるということ。 ・積み重ねは大事。笑顔の大切さ。 ・真心を知ってもらいたい。 ・人は誰でも変わることができる。 ・人に優しくすること。 ・差別をなくしたい思いと前向きに生きる大切さ。
テーマについて	・清く、正しく、美しく、人はいつからでも変われる。 ・いじめをなくしたい人なんだなと思いました。 ・いじめをせずに、清く正しく生きる。 ・変わるには努力が要る。 ・いいテーマだなと思いました。 ・人間の本来の姿。人は変われる。 ・いいことをすれば、自分にもいいことが必ず返ってくる。 ・読み聞かせを聞いていて、意味がよくわかった。

感想・意見等	・人の心は、人の心を動かすということが分かりました。私も人の心を動かせるような心を持ちたいと思いました。 ・何かのきっかけで人は変われると思いました。誰に対しても優しく親切にしたいです。 ・自分も人の手伝いなどをして役に立つ人になろうと思った。 ・最初、泥かぶらは皆から嫌われていたのに、泥かぶらが周りの人に優しくして助けたことで周囲の人たちの心も変わっていったので心に残っている。 ・僕にとって難しい話でした。 ・心に残るお話でした。 ・いい本だった。 ・人は変われると思った。 ・私は人を助けるために、何か努力しようと思った。 ・自分も人の役に立てるような人間になろうと思った。 ・自分も少し変わろうかと思えた。決心が大切で、そのためには根気が必要だが、頑張っていれば報われる。感動した。 ・人はいつでも、思えば変われる。笑顔って素敵なこと ・読み手の表現がよく、引き込まれた。 ・心についた泥を落とせば、顔もきれいになるんだなと思った。 ・人の美しさややさしさが分かる文章がたくさんあり、作者も、きっといい人だと思う。 ・心の美しさと優しさは持てそうで持てない。 ・絵本だからできるただの美談。 ・心に刺さった。 ・痴漢や強姦されても笑って耐えているのと同じものだと思う。 ・いじめられていたのに、我慢して皆の役に立つのはすごいと思いました。 ・キレイになるには顔を整形するしかないと思っていました。でも、こんな風にしてもキレイになれるんだなと思いました。努力はいるけれど無料でキレイになれるのはいいことだと思いました。 ・人間も心についた泥を落とすことができれば、人間の本質にある美しい真心が現れるのだと思った。(便乗しました。) ・良い絵本だった。 ・心が温かくなるいい話だと思った。 ・泥まみれなかぶらも泥をとれば白いきれいなかぶらが出てくる。人も心が泥まみれなら、それをとれば良い、やり直せる。
--------	--

	絵本のタイトル・読み手	作者・絵・訳者など
第〔 2 〕回 10月25日実施 2年次3クラス	100万回生きたねこ 〔 講談社 〕 読み手 森住 啓子さん	作 佐野 陽子
心に残るフレーズ	・「100万回死んだよ？」と自慢して「そう」と言われるところ。 ・「おれは100万回死んだんだぜ。」 ・白いねこと一緒にいたいと思った。 ・「となりにいていいかい？」「ええ」 ・「ねこは二度と生き返りませんでした」というところ。	
印象に残った場面	・白ねこと出会うとき。 ・最後、白ねこと出会う場面。 ・王さまやサーカスなど色々の飼い主のところに100万回も生き返ったというところ。 ・白いねこが好きで隣でいようと言っていたところ。 ・白いねこと出会う自分以外の人を好きになったこと。 ・白いねこが亡くなったとき。 ・白ねこと寄り添っているところ。 ・「ねこは、白いねこと一緒にいつまでも生きていたいと思いました。」というところ。 ・白いねこが死んだ時にとらねこが白ねこの横で100万回泣いたところ。 ・最後、とらねこが生き返らなかったところ。 ・白いねこが死んで、とらねこが初めて（100万回）泣く場面。 ・白いねこに「一緒にいていいかい」と言うところ。 ・100万回～と言わなくなったところ。 ・白いねこが亡くなってとらねこが泣いている場面が印象に残りました。 ・若い二匹のねこが結ばれて、子供が出来て子供が巣立っていき、ねこ二匹が動かなくなった場面。 ・ラストシーン、白いねこに寄り添ったところ。	
それぞれの飼い主について思うこと （王さま・船のり・サーカスの手品つかい・どろぼう・おばあさん・小さな女の子）	・どの飼い主もとらねこのことを愛していたんだと思った。 ・とらねこに嫌われていた。 ・死んだときに泣いてくれる、いい人たち。 ・それぞれ猫を大切に思い、きちんと埋めてあげていたのが印象深い。 ・みんなねこのことが大好きだったから、たくさん泣いたと思う。 ・あまりいい人たちではない。王：自分のすごいところを猫に見せたかったのだろうが、考えが浅い。船：事故で仕方がない。手品師：仕方がないが、猫で手品をしなければよかった。盗ぼう：まぬけ。どろぼうするからバチが当たった。嬸：ちゃんと最後まで甘やかしてえらい。少女：王様に似ていてはじゃぎすぎ。	

	・どの飼い主もねこが死んだ後に泣いているので、死んでしまった後にねこの大切さに気付いているように思う。 ・皆、ねこが好きだったので一緒にいたかった人だと思いました。 ・どの人も最後は、大泣きしているからそれほどかわいがっていたと思う。
とらねこについて 思うこと	・死ぬことに慣れていそう。 ・素直じゃない猫 ・自尊心が高い ・白ねこのことを自分より大事に思うことが100万回目でできたのだ「最終いい男！」って感じ。 ・自分が好きだと思えるものを見つけたかったんだと思った。 ・100万回も生き返ってすごいと思った。 自慢げ。 ・白い猫を好きになり、素直に伝えたのがよい。愛する者と死にたかったのかも。 ・やっと自分が大好きになれてよかった。 ・淡泊 ・完全無欠の存在と思い込んでいたが、白ねこの言動を受け謙虚になった。自慢する側から素直な側にまわった。改心してすごい。 ・愛を知らなかったねこが、愛を知ってからとても優しくなった。 ・愛される側ばかりだったとらねこが本当の愛を知り、悲しみを知っているのが泣きそうになりました。 ・自分が大好きなとらねこであったが、白いねこ出会い、白いねこ子供が大好きになり変わったと思う。 ・とらねこは飼い主が嫌いであっても、いつもいっているところが不思議でした。
白いねこについて 思うこと	・猫のこまかいところや色使いが良くてデザインが良かった。 ・白いねこもとらねこが大好きだった。 ・かわいい。 ・とらねこを変えた白ねこに凄い魅力を感じる。 ・最初はとらねこに冷たかったけど仲良くなった。 ・のらねこになったとき、自分が大好きだったけど子ねこが生まれてからは、自分より子ねこの方が大好きだった。 ・色が綺麗だった。 ・(案外) 優しい ・おとなしい ・無口 ・とらねこに一目惚れして恥ずかしかったのかも。 ・本当のとらねこの姿を見抜いている。素直になれば相手を認める様は器が広い。 ・最初のとらねこと同じで愛される側なのでもしかしたら、白ねこは生き返るのかなと思いました。 ・あまり自分の感情を表に出さない子供が巣立ったあとののどをならすところが母親らしさがでていた。 ・とらねこに対しても素っ気ない態度を取りつつも一緒にいてあげる優しいねこ。

色づかい レイアウト 装丁（表紙デザイン）	・落ち着くような色使い。ふんわりした描き方。 ・色々な色を使っていて表情が豊かだった。 ・柔らかな色使いで綺麗。 ・ひとつひとつの動作がすごくわかりやすいし、可愛いなと思った。 ・色があざやかで、ごちゃごちゃしてなくて見やすい。 ・シンプルだった。 ・鮮やか ・淡くて少し暗い ・カラフル ・最初は悲しいどんよりした雰囲気、黒が多めだったが、とらねこが幸せになるにつれ、色が明るくなっていった。 ・心情が分かりやすい。 ・主人公のねこの色が少し黒いところが、ひねくれものの感を出している気がする。
作者の思い	・いつどんな時に命を失うかわからないから、大切にしてほしいと伝えなかったと思う。 ・今を精一杯に生きる！ ・最後は自分以外を好きになるってところ。 ・とらねこと自分の人生を照らし合わせたのかなと思いました。 ・自分の過去を織り交ぜているのかも。 ・どれだけ長く生きても大切なものを見つけなければつまらない。大切なものを見つけた時こそ光るものがある。 ・ただ生きるのではないということ。 ・大切な人をなくすということが、どんなに悲しいかを伝えようという気持ちがよく分かった。
テーマについて	・大切な人を亡くしたことはわからないけど、悲しませないようにしたい。 ・輪廻転生の果てにつかんだ真実の愛。 ・死と愛 ・命の尊さ ・100万回目は意味のある死に方？と考えました。 ・他人に望むのではなく、大切なのは自分から改変すること。 ・真実の愛に出会えれば、どんなものでも変わるんだと実感できる。
感想・意見等	・もし自分も100万回生きたらどんな感じなんだろうと思いました。 ・私も初めてこの絵本の話を知りました。また、図書館に行ってこの絵本を借りようと思った。 ・失った人を取り戻すことはできない。 ・絵本のファンタジーなストーリーで、生きては死んでの繰り返し……毎日悔いのないように精一杯生き続けたい。 ・前にも読んだことあるけど、この本は好きです。白いねこは凄いです。例えるなら、私も白いねこみたいになりたい。 ・この絵本は小学生の時に知り、かれこれ3～4回くらいよんだことがあります。いつも最後のシーンは、とらねこが幸せになったから生きかえらなくなったんだと思っています。 ・せつなかった。 ・（作品の）終わり方がよかった。 ・感動した。

	・一冊にたくさんの人生がつまっていた。 ・自己本位であるうちは大切なものは見つからない。素直なことが大切である。 ・以前から見知っていたが、改めて好きな絵本だと思った。 ・愛を知ったねこは愛するものを亡くすことがどれだけつらいか知った。
--	---

	絵本のタイトル・読み手	作者・絵・訳者など
第〔 3 〕回 11月8日実施 2年次3クラス	『風切る翼』〔講談社〕 読み手 藤川 眞弓さん (読み聞かせグループかぶとむし)	文 木村 祐一 絵 黒田 征太郎
心に残るフレーズ	・「オレ、飛んでいるぞ！」というところ。 ・フレーズではないけれど、クルルとカララの愛はすごく強いなと思いました。私は弱くて情けない人間だけど、クルルやカララみたいに強い友情、相手を思いやる心だけは誰にも負けない！ ・クルルが「一緒にいてくれるかい？」といってカララが「もちろん」と言ったところ。 ・「こいつ覚悟をしている」 ・「何もかもが信じられない」 ・最後の場面でカララがクルルに対して「一緒に行ってくれるかい」と言ったところ。 ・「一緒に行ってくれる？」 ・「カララは覚悟していた。」	
印象に残った場面	・カララが、飛べないクルルの所に降り立った場面。 ・クルルとカララの友情。 ・最後のキツネにおそわれる場面。 ・仲間が羽ばたくところ。 ・クルルが皆に悪者にされた時。 ・クルルが飛べない時、カララがクルルに寄り添ってあげた場面。 ・クルルとカララが最後に一緒に飛び立った場面。 ・キツネに襲われそうになったカララをクルルが助けたところ。 ・カララが何も言わずに隣にいるところ。 ・カララがクルルのために羽ばたいたところ。 ・クルルを犯人に仕立て上げて、いじめのターゲットにしたところ。 ・飛べなくなって、草原でうずくまっていたところ。 ・クルルとカララが一緒に飛んだところ。 ・カララがクルルをずっと待っていた場面。 ・クルルとカララが一緒に飛び立つシーン。 ・ラストシーンできつねから逃げようとして、飛べなかったはずのクルルが逃げたところ。	

クルルについて 思うこと	・周りにいじめられていたので、自暴自棄になってしまっていたが仕方無いと思った。 ・クルルは自分自身を責め続けていた。最初はひとりぼっちだったクルル、カララがそばにいてくれた。 ・仲間のツルがキツネに襲われて、クルルのせいにされていた。 ・自分ばかりを責めていた。 ・気が弱い。 ・悪くない。 ・最後の場面でキツネに襲われたとき、飛ぶことが出来て良かった。 ・可哀そうだった。 ・裏切られて辛かったと思う。 ・かわいそう。 ・びんぼうくじを引いた可哀想なやつ。けれど芯は強い。 ・すごい。 ・仲間に裏切られ、何も信じられなくなるのは誰でもなることだと思うし、最後に飛べることができたのはクルルにとって大きな一歩だと思う。 ・仲間にえさを分け与えただけなのに、クルルのせいにされて本当に辛いだろうと思いました。 ・いじめられ仲間はズレにされるが最後は良かったと思う。
カララについて 思うこと	・周りがクルルをのけ者にしていたので、クルルと関わった時の事をずっと考えていたのではないかなと思った。(周りにクルルみたいなのけ者にされるのではないかな等) ・カララはすごく体が弱くてクルルからえさをもらっていた。クルルとカララの愛は無償の愛。 ・クルルは最高の友達を持ったと思う。 ・仲間を見捨てなくてえらい。 ・クルルに死んでほしくないという気持ちが伝わってきた。 ・最初、事件が起きたとき周囲に気遣ってクルルから距離をおいていたけれど、最後はクルルに寄り添ってあげていた。 ・やさしいツルだった。 ・ひどいと思ったけど、最後は感動した。 ・相手の気持ちが分かるいいやつ ・すごい ・本当はクルルに恩を感じていたが、なかなか言い出すことができなかった。ので、意思が弱いところがある。 ・どうしたらよいか、分からなかったのかも。 ・裏切り者。 ・クルルのことを本当に大切だと思っているんだと思った。 ・集団意識の一部であったが、覚悟をしたことはよかった。しかし、初めからできていたらなお良かった。 ・カララは自分ものけ者にされるのがいやという気持ちが勝ち、クルルを裏切り者にさせようとしている。 ・みんなと黙っているだけで、エサを分け与えたりしているクルルを無視して最低だと思ったけど、一緒に行こうと言ったとき感動しました。 ・クルルが飛ぶことができるようになるきっかけを作ってくれた。 ・自分がクルルに助けられたから自分もクルルをたすける。とても良いと思う。

周囲の仲間 について思うこと	・カララ以外誰一人としてクルルを助けようという気持ちが無かった。そうならないようにしたい。 ・一人を責めるのは良くない。 ・協調性がない。 ・ヒドイ。 ・最低。 ・仲間外れはダメだと思う。 ・少し言い過ぎではないかと思った。 ・私たちと同じ。 ・勝手に決めつけたのが悪い。 ・冷たい。 ・誰かのせいにしないと自分たちの心が落ち着かない。仲間とっていいのか分からない。 ・他に責任をなすりつけるのは最低だと思った。 ・キツネにバレたのがクルルのせいだと決めつけて、本当に仲間なのかと思った。 ・強い集団意識が逆手に出た。日本人に似ている。 ・おろか。 ・自分がのけ者にされるのがいやという気持ちが勝ち、クルルを裏切り者にさせようとしている。 ・人間も一緒ですがみんながやっているから私もというのが、・見ていてすごく嫌な気持ちになりました。 ・責任をなすりつける、ひどい奴らと思う。 ・ひどい、だが仕方ない。
色づかい レイアウト	・きつねがアネイズルを襲っているシーンなど、すごく躍動感があり、リアルだと思った。 ・色使いがやさしい感じ。 ・彩色豊かだ。 ・色がころころ変わる。 ・青い色、淡い色を使っていて見やすかった。 ・おしやれ。 ・濃い色や少し薄い色など使っていて、表現がわかりやすかった。 ・場面場面によって違う色使いがされていた。 ・とても見やすいデザインだった。 ・薄っすらとした色づかい。 ・雰囲気that分かりやすい。 ・きれい。 ・あざやか。 ・要所で明るくなったり暗くなったりして、そのときの気持ちを表しているのかなと思った。 ・コントラストがあり、メリハリがある。クルルの悔しさが上手く表現されている。 ・クルルが暗い気持ちの場面は暗めの色使いが多かった気がする。 ・水彩っぽい感じで色の濃さやうすさがグラデーションっぽく表現されていて場面場面によってすごくわかりやすかった。 ・淡い感じ。 ・きつねの時だけはでな色。
作者の思い	・いじめに対する対処法を一つ知ることができました。 ・一人にしない、味方になってほしい。 ・作者の人も言うように、他人事のように読んだらダメと思いました。 ・誰かの隣りに居てほしいという思い。 ・両想い。 ・ずっと苦しむわけではない。 ・いじめがなくなってほしい。

	・一人でいるより誰かそばでいてあげたほうがよい。 ・平和と仲間を大切にする。　・自分を守ってくれるやつはいるよ。 ・自分が悪者になって辛くても、ずっとうじうじしてはダメ。 ・一人でも仲間はずれの人達がでないようにカララのような人がふえてほしいと願っていると思う。 ・作者ももしかしたら、こういう経験があるのかなと思いました。こういう時に手をさしのべてあげることがあなたにできますか？と聞かれている気がします。
テーマについて	・相手の心を思いやる気持ち。　・今の世の中を再現していた。 ・私を失いたくない人なんているのだろうか、と思ったけど本を読んで、私からしたら失いたくない人はたくさんいる。・（「あなたを失いたくない、と思う誰かがきつといる。」に対して）いるかもしれないし、いないかもしれない。 ・芯を強く持ち、毅然であらねばならない。 ・「助ける」ということ。　・カララが思った言葉なのかなと思いました。 ・悲しく、切ないイメージがある。
思ったこと 感じたこと	・自分が仮にクルルの立場になっても、立ち直れる自信が無いですが、カララみたいに困っているクルルがいれば助けてあげたいなと思いました。 ・いい話だった。小さい体で大きな山を越えるのがすごいなと思った。 ・私にはすごく中の良い親友がいます。その親友が悩んだり苦しんだりしたら側にいてあげたいし親友をもっと守ってあげたいと強く感じました。一人になっている人がいたら、側にいてどんな状況でも守ってあげられる強い人間になりたいです。苦しんでいる人がいたら私はほってはおけない。 ・ひとごとではないし、この先、自分がこういう場面にであうかもしれない。 ・仲間は大切だなと思いました。　・協調性って大事だなと思った。 ・仲間外れにするってことは、本当に仲間と言えるのか？ ・仲の良かったクルルとカララがキツネに仲間を食べられるという事件をきっかけに距離が出来てしまっていたが、最後の最後にはカララがクルルの隣りにいた。自分もカララみたいな存在になれるように前向きに生活をして行きたい。 ・今、自分にも失いたくない人が居るから、その人のことを思って、今後の生活に生かしていけるようにしたい。 ・何で急に飛べなくなったのか？　ストレスが重なったから？　なのか。 ・アネハヅルというのを初めて知った。　・クルルは優しいと思った。 ・困ったときでも、誰か一人は助けてくれる。 ・いじめはいつ起こるか分からない、身近なものだと思った。 ・何も言わずに仲間を思って側にいるのはすごい。

	・自分がツルなら、多数側になっただろう。 ・自分もカララのようにになりたいと思った。 ・こういうことはありがちなので、気をつけようと思った。 ・誰もが失いたくない人を持っていると思う。 ・本当に困ったときでも、必ず助けてくれる人が少なくとも一人はいるのかなと思った。 ・日常生活でよくあることだからこそ、いつ起こるか分からない。けれど、いつまでもひねくれていてはいけない。 ・カララになれたらいいな。 ・いい話。 ・感動した。 ・集団生活は、このようなことがよくあることだと思うので、勇気があることだが、カララのような気持ちをもてるようになりたいと思った。 ・学校生活、社会などみんながやっているからやっていいわけじゃないと勉強させられる本でした。私もこういう場面になったら絶対に負けないです。 ・集団の力ってこわいなあと思いました。 ・最後は一緒にいたけど、1度でもうらぎったカララが嫌い。 ・少し前に同じような事があったのでクルルがどう思っているのかとかすぐわかった。 ・主人公は作者はいじめられても助けてくれるカララがいる。自分も助けてあげられるカララになれると私は思う。
--	---

読み聞かせ絵本探求プロジェクト2018〔第4回〕

所要時間40分 <対象クラス：201HR（1限）202HR（2限）203HR（8限）> <2018. 11. 15. THU> <お話：森住 孝義さん>（よみきかせグループかぶとむし）
--

テーマ 「ようこそ！ 阿波人形浄瑠璃の世界へ」

ねらい 阿波人形浄瑠璃の世界を知ろう。江戸時代から阿波・徳島において隆盛してきた人形浄瑠璃。民衆の娯楽として絶大な人気を博した芸能であり、木偶（でこ）人形の造形美と、大夫、三味線、人形遣いら演者が織りなす芸術です。時代を超えて人々を魅了し続ける阿波人形浄瑠璃の世界へようこそ！！

書 名	お話しのポイント等
『ようこそ！ 人形浄瑠璃の世界へ』	阿波人形浄瑠璃は、昔から徳島の伝統芸能として県民に親しまれてきました。今日の講師先生のお話から、阿波人形浄瑠璃の素晴らしさを知って頂ければと思います。特に有名なのが、

講師 森住孝義 さん



人形浄瑠璃「傾城阿波の鳴門」です。

この作品は、1698年に罪状も明らかにされないまま藩の政策上の犠牲となって処刑された庄屋、板東十郎兵衛の名を借りて、お家騒動の物語に仕立てたものと言われています。現在の徳島県立阿波十郎兵衛屋敷が、元々の阿波十郎兵衛の屋敷跡であり、「傾城阿波の鳴門」ゆかりの場所なのです。阿波十郎兵衛屋敷では、国の重要無形文化財「阿波人形浄瑠璃」を毎日上演しています。また、展示室では、阿波人形浄瑠璃の特色や木偶人形の展示を見学できます。今日の森住さんのお話を契機として、ぜひ、十郎兵衛屋敷に足を運んでみてください。

内容

- 1 人形浄瑠璃って？ 2 太夫・三味線・人形つかい 3 人形浄瑠璃の歴史
- 4 阿波人形浄瑠璃 3つの日本一！！ 5 木偶（でこ）人形 大きさの比較
- 6 人形遣い 7 阿波の箱回し（大道芸） 8 お正月の門づけ（祝福芸）
- 9 犬飼農村舞台 10 襖（ふすま）からくり 11 阿波「藍」と人形浄瑠璃
- 12 傾城阿波の鳴門『順礼歌の段』



熱弁をふるう講師の森住さん



人形遣いの手ほどきを受ける生徒達

生徒の感想

僕は、人形浄瑠璃の劇中に御詠歌があることを知り、とても興味がわきました。自分もよく金剛流を練習しています。そんな昔から系統立って今日まで続いている人形浄瑠璃に驚くと共に深く感銘を受けました。（2年次男子）

私が人形浄瑠璃を知ったのは小学生の時でした。高校生になって久々に国語の授業で教わる機会を得ました。以前に教わった記憶が甦り、懐かしく思い出しました。一体の人形を三人掛けで操作するのを観て、改めて凄いなと思いましたし、手の動かし方によって顔の表情が変わって見えるのも、凄いなと思いました。（2年次女子）

僕は人形浄瑠璃の歴史が、そんなに古いものだとは思っていませんでした。父親が高校時代に部活で浄瑠璃をしていたと聞いていたので、一度は触ってみたかったですし、徳島の伝統文化なので凄く興味がありました。そして今回、女の子の木偶人形に触らせてもらったあの感触は忘れません。製作者の職人さんの文化を守ろうとする魂を感じました。（2年次男子）

木偶人形を遣ってみて、動かすのがとても難しかったです。講師の先生方が動かしているのを観て、とても素晴らしかったです。僕もお二人のように人形を動かそうと頑張ったけど、上手くできませんでした。説明を伺って、阿波人形浄瑠璃の世界は、とても奥が深いなと思いました。(2年次男子)

僕は、森住孝義さんによる「阿波人形浄瑠璃の世界」の講義を受けて、実際に人形遣いを体験して、人形を動かす大変さや人形浄瑠璃の歴史など、色々なことを教えてもらって楽しかったし、凄く勉強になって良かったです。また機会があれば、舞台を見に行きたいです。それにしても、木偶人形はとても重くて、長時間持っているのはとても大変だと思いました。(2年次男子)

	絵本のタイトル・読み手	作者・絵・訳者など
第〔 5 〕回 11月29日実施 2年次3クラス	『おかあちゃんがつくったる』 〔講談社〕 読み手 川端 美紀さん	文・絵 長谷川義史
心に残るフレーズ	- 最後の場面のお母ちゃんが「ミシンでつくってん」というフレーズ。 - お母ちゃんがつくったる。 ・ミシンでつくったる。 - なんやほれえ〜。 ・ミシンでつくってん。	
印象に残った場面	- 最後のお母ちゃんのせりふが題名とピッタリで印象に残った。 - よしふみの参観日に来た場面。 ・背広を着てお母ちゃんが立ってた。 - 最後の、ミシンで作ったんやが印象に残った。 ・よしおのかばん。	
おかあちゃんについて思うこと	- よしふみにとっては少しいやだったこともあったが、お母ちゃんにとってはよしふみへのやさしさのように思う。 - お母ちゃんは子どものために一生懸命になってえらいと思った。 - 一日でカバンを作るとかすごい。 ・ポジティブ。 - お母ちゃんはお母ちゃんなりにいろいろ考えているんだなと思ってこれからは頑張ってもらいたいという気持ちになった。 - 大阪のおばちゃんっぽい。 - Gパンや体操服はともかく、スーツまで作れるのはある意味すごい。	
よしふみについて思うこと	- ミシンで作られるのは嫌でついにお母ちゃんに言いたいことを言ってしまったが我に返ってお母ちゃんが悲しがっていることに気づけたのが優しい子だと思った。 - 年を重ねるうちにお母ちゃんのやさしさがわかるようになっていった。 - 名前がかえられてかわいそう。	

	・みんなに笑われては恥ずかしいかもしれないけど、大きくなった時、笑い話ができるので将来楽しみだと思いました。 ・THE子ども。
周囲の仲間について思うこと	・小三でからかいたい年頃なのでついからかってしまうもののように思った。 ・小学生らしいと思った。 ・べんべんべんって何？ ・私も多分よしふみ君がお母ちゃんが作ったものを着ていたら笑ってしまうかもしれないけど、手作りのものは売っていないし自分だけのものになるので少しいいと思います。 ・あれ、おれじゃね？
レイアウト	・人物の絵が個性があって面白さを出しているように感じる。 ・顔が大きく表情がわかりやすかった。 ・けっこう、みやすかった。
作者の思い	・親を大切にしてほしいという思い。
テーマについて	・物語が個性的で面白い話の内容に思えた。 ・ミシンの万能さ。 ・お母ちゃんの愛が本当に伝わるいい絵本でした。
思ったこと 感じたこと	・共感できるシーンもたくさんあったので見て面白かったです。 ・人の頭がでかい。 ・親の愛って伝わらないですね。 ・お母ちゃんがすごい頑張っている感じが伝わって話を聞いてすごくほえましい気持ちになりました。

	絵本のタイトル	作者・絵・訳者・読み手
第〔 6 〕回 2月17日実施 2年次3クラス	『父のかお母のかお』 〔雲母書房〕 読み手 堀江 満子さん	脚本 ときわ ひろみ 絵 渡辺 享子
心に残るフレーズ	・戦争はしてはいけない……その言葉しか出てこない、私は人を助けたい！ ・お母さん！（和子の夢の中） ・全て。 ・「君たちをこんな目に合わせる大人たちはダメだね」と復員兵が言ったところ。 ・涙を流した時の復員兵の言葉。 ・母が「和子、昭一を頼むよ。」といったところ。	

	・お母さんの似顔絵を見て「ぼくってお母さんにそっくりなのか」と昭一が喜んで言った場面。 ・母が「和子，昭一を頼むよ。」といったところ。 ・昭一の「大丈夫だよ。憲法で決まってもう戦争は二度としない」というところ。
印象に残った場面	・泊まりに来た，おじさんが2人のお父さん，お母さんの似顔絵をかいていたこと。 ・おじさんが描いた絵のお父さん，お母さんと話しているところ。 ・おじさんが戦争で亡くなったお父さんとお母さんの顔をかいて，和子と昭一が笑顔で会話したところ。 ・お母さんが空襲で家の下敷きになっている場面。 ・父母の絵もたてて，ご飯を食べているところ。 ・昭一が復員兵を連れて来たこと。 ・和子が家に復員兵を泊めたこと。 ・家に泊まったおじさんが寝ないで絵を描いた場面。 ・復員兵が描いた絵を姉弟が観て，「そっくりだ」と言った場面。 ・復員兵が似顔絵と手紙を残して行ったところ。 ・弟が母親に似ていると言ったシーン。 ・最後の復員兵の手紙を読むところ。 ・父母の絵が置かれていたところ。 ・復員兵が二人のために戦争で亡くなってしまったお父さんお母さんの絵を描いて，手紙を添えてくれたこと。 ・復員兵が大粒の涙を流したところ。 ・和子の夢。 ・復員兵が両親の似顔絵を描いてくれたところ。 ・最後の会話。 ・姉が戦争の夢を見ているところ。 ・和子の母が出てくる夢。 ・復員兵が大粒の涙を流している時に，和子と昭一が励ましていた場面。 ・母の絵，父の絵がでてきた時。 ・復員兵が絵を置いていった場面。 ・お父さんとお母さんの似顔絵を見ながら食べるシーン。
姉・和子について 思うこと	・おじさんを泊めるか迷ったけど，疲れている顔を見てほっとけなかったから泊めてあげて優しい。 ・弟の面倒をみたり家事をしていたのがすごいと思った。 ・お母さん，お父さんの代わりになって，昭一の面倒を見ているところ。 ・父も母もいないし，落ち着いてはいられない弟を世話しているのが凄いと思ったし尊敬しました。 ・しっかり者のお姉さん。年が近いとは思えない感じでした。 ・弟思いの頑張り屋さんだったと思った。 ・弟のために家事をする優しさ。 ・十六歳で家を切り盛りしているのは凄い。 ・苦労している子ども。 ・まだ16歳なのに家事を一人でしているのは凄いと思った。 ・弟思いの優しいお姉さんでお母さんの存在。 ・しっかり者。 ・お母さんのようにしっかりと家事をしている。 ・いい人。

	・弟の面倒を見ながらご飯を作ったり、洗濯をしたりして、とても頑張り屋のお姉ちゃん。 ・母のかわりに頑張っている。 ・きちんとした人。 ・学校に行かず、昭一の面倒を見たり、家事をしてしんどいはずなのに、何も言わずにしているのがすごいと思った。 ・年が私とあまりかわらないのに、家事などして弟のこともよく考えてしっかりしているお姉ちゃんだと思った。 ・家事をすごくがんばっていて、戦争の事がすごくトラウマになっているんだなと思いました。私も母と同じところにほくろがあるので一緒だと思いました。 ・女手一つで弟の世話をしている。 ・毎日大変だなと思いました。
弟・昭一について 思うこと	・困っていた人を助けようとしたことがすごいなと思った。 ・すごく元気で優しい男の子。 ・困っている人を助けてあげた。 ・T h e弟って感じでした。とても心の優しい子。 ・心の優しい子。 ・優しい子。 ・心のきれいな少年。 ・たくましい。 ・知らない大人に優しく接しているのは凄い。 ・いい人。 ・元気。 ・親の顔を知らないのは可哀そうと思った。 ・姉思いのいい弟。 ・困っている復員兵を助けた、とても心優しい弟。 ・幼い感じだが明るく、しっかり者。 ・誰にでも優しく接している。 ・7歳なのに思いやりがあって、しっかりしている。 ・7才というとても幼いのに、泣かずに毎日前向きに生きていてすごいと思った。 ・長女として弟の面倒を見ているのがえらい。 ・九九言えるようになってえらい。 ・迷った人を連れてきた時はすごくびっくりしました。元気な子だと思いました。 ・おじさんに書いてもらった絵のおかげで親の顔が分かってよかったと思いました。
復員兵 について思うこと	・詐欺だと思っていたけど優しくあたたかいおじさんだった。 ・すごく優しくていいおじさん。 ・人に対してすごく優しい人。 ・苦労人の和子と昭一の顔をベースに父と母の顔を描くというのはすごく優しいなと思った。 ・心のおだやかないい人。 ・絵の上手な、すごく優しい人。 ・ふたりが泊めてくれたから、ありがたがっていると思う。 ・姉弟の顔を見ただけで、父母の顔を想像して描いたのは凄い。 ・とてもいい人だと思った。 ・優しい。 ・悲しみがすごく伝わった。 ・和子さんや昭一君に対して、ものすごく優しいおじさん。 ・骨を運ぶのはとても辛いことだと思った。

	・ラジオで言っていた人なのか気になる。　・絵が上手い。 ・二人のことを大切にしている。　・結局、詐欺師なのか気になる。 ・和子と昭一に「ありがとう」とずっと言っていて本当に感謝しているようだった。 ・悪い人かもしれないと思っていましたが、戦争の話をしている時、泣いていて絵と手紙を残していて本当にいい人だと思いました。 ・出て行くまで詐欺犯かと思っていた。
色づかい レイアウト	・見やすかった。　・柔らかい色使い。　・きれい。 ・あたたかい。　・全体的に優しい感じ。　・全体的にやわらかい。 ・遠くから見てもわかりやすい色だった。 ・場面ごとに背景の色が違っていてどんな場面なのかがわかりやすかった。 ・かわいらしい印象のレイアウトだったのが、いきなりリアルな顔になったりする。色彩豊かである。 ・話と色が一致。　・昔の風景が伝わってきた。 ・色が明るくて見やすかった。 ・分かりやすくて、入っていきやすい色だった。 ・いろんな色を使っていて、色づかいがきれいだった。　・鮮やか。 ・今にも動きそうな絵ですごいなと思った。 ・昔話っぽい絵柄でなつかしい感じがしました。　・昔なつかしい感じ。
作者の思い	・戦争はしてはいけない！ことを読者に伝えたかったのかな？ ・父母の大切さを教える為に描いたのではないかと思います。 ・ふたりの思い（親切心）をわかってほしい。 ・戦争はしてはいけない。　・戦争をこの世から消したい。 ・家族を大切にしてほしい。　・戦争に対しての強い悲しみ。 ・戦争の事を教えたかったんだと思った。 ・戦争のせいで大変な思いをしている人達がたくさんいたということを、今の子供たちに伝えようとしているように思った。 ・父のかおも母のかおも見るができなくなる戦争はつらいことだと言っている気がしました。
テーマについて	・父のかおと母のかお、お姉ちゃん、弟どっちの顔に似ているだろうって話していて私もどっちに似ているだろうって絵本みていて思いました。 ・戦争をしてはいけない～たくさんの悲しみ。 ・戦争とは恐ろしいもの。　・戦争は悲しいということ。 ・両親を戦争で亡くした子どもたちの様子がよく分かる。 ・戦争の悲しみは、今後も伝えていってほしいと思った。 ・戦後も悲しんでいる人がいる。 ・戦争は本当に辛いことだと思いました。　・戦争は本当に良くない。

	・二人の顔が似ていることもいれて「父のかお母のかお」というテーマのように思う。
思ったこと 感じたこと	・昭一がおじさんを助けたことによって、おじさんが元気になれて良かったと思う。家には似顔絵と手紙を置いていて優しいおじさんだった。 ・お父さん、お母さん、お婆さんが亡くなってしまったけど弟の面倒や家事を一人でしているお姉ちゃんがすごいなと思った。 ・今まで色々な戦争の話や本を読んだり聞いたりして心がすごく痛みました。私たちは恵まれた生活をしているんだな と身にしみて感じました！私は人を助けたい！と強く感じました。 ・父の顔、母の顔も見ることが無い人がいるというのを考えると、自分の母をもっと大切にしていきたいと思いました。 ・家族のありがたさ、大切さ。 ・戦争の怖さがわかった。 ・私だったら和子みたいに、弟の面倒をみたり、お弁当をつくるなんて出来ないと思うから凄いなと思った。 ・戦争は二度としてはいけないと思った。 ・戦時中に父母を亡くし、それでも子どもだけで生きていくのは凄いなと思った。 ・今は普通にしていることが、昔は難しかったんだと思った。 ・似顔絵だけど、昭一が、父母の顔が観られてよかった。 ・今、普通の家で住めて、両親と一緒にご飯が食べられることが、どれだけ幸せなことかわかりました。 ・いかに自分たちが恵まれているかが分かった。 ・この時代は、何もかもが本当に辛かったと思います。今の時代に生まれてよかったと思います。 ・これから先、戦争がなくなってほしいと思った。 ・いい話だった。 ・戦争はいけないと改めて思った。 ・良い紙芝居だった。 ・こんな時もあったのか。 ・戦争は人の心をしあわせにしない。 ・両親がいるのが当たり前と思っていたが、当たり前じゃない。 ・復員兵が泣いていたシーンで戦争を経験している人は本当に辛い思いをしてきたんだと思った。 ・父親や母親などいるのが当たり前な自分。 ・母の顔も父の顔も見ることない弟が、男の人に話をして父と母にそっくりな絵を見てすごくうれしそうにしている良かったなと思いました。 ・戦争はしてはいけないと思いました。

※ 「古典基礎」絵本探求ワークシートの記録(抜粋)

◇読み聞かせ 第〔 1 〕回 感想 11月12日(月) 3限実施

【鉢かづき】

- ・鉢かづきは頭にかぶっている鉢のせいで皆からのけ者にされて自分に自信がなくなってしまうていたが、宰相と出会ったことで少しずつ幸せになっていき、宰相と駆け落ちする時に鉢がとれ、たくさんの豪華なものが出てきたのは、今までの苦しかった分、お母さんからの贈り物のように思えた。
- ・読み方が上手だった。
- ・ハッピーエンドで良かった。鉢かづきはいいい子だと思った。
- ・とても絵がきれいで印象に残った。
- ・一生懸命読んでくれてうれしかった。

	絵本のタイトル・読み手	作者・絵・訳者など
11月15日(木) 3限実施 古典基礎絵本探求授業 第〔 2 〕回	茂吉のねこ〔ポプラ社〕 読み手：森住 啓子さん (読み聞かせグループかぶとむし)	文：松谷みよ子 絵：辻 司
印象に残った場面	・魚をくわえたところ。 ・色遣い。	
色づかい・レイアウト	・きれいな色。 ・赤色が多かった。	
感想・意見等	・おもしろかった。 ・いい話と思った。 ・様々な試練を与えられているのに全てこなしているところが面白かった。	

	絵本のタイトル・読み手	作者・絵・訳者など
11月15日(木) 3限実施 古典基礎絵本探求授業 第〔 2 〕回	じごくのそうべえ〔童心社〕 読み手：森住 啓子さん (読み聞かせグループかぶとむし)	作 たじま ゆきひこ 他
印象に残った場面	・読み方が上手だった。 ・生き返る場面。 ・最後のシーン。 ・おなかの中。 ・火の車のところ。 ・そうべえたちが地獄の中でも全く苦しんでいなかった場面。	

色づかい レイアウト	・明るい色や黒い色。　・原色がいろいろ使われていた。　・カラフル。 ・いろいろな色が使われていてカラフルだった。　・とてもよかった。
感想・意見等	・昔話の本はおもしろいと思った。 ・鬼たちのサバイバルな感じが面白かった。 ・しゃべり方とストーリーがおもしろい。　・また読みたい。 ・他の３人は悪いことをしていたが、そうべえは商売の内容だけで地獄行きが決まり、少しかわいそうと思ったが、商売のおかげで乗り越えられたように思った。

	絵本のタイトル	作者・絵・訳者など
11月15日（木） 3限実施 古典基礎絵本探求授業 第〔 2 〕回	ごんぎつね〔 偕成社 〕 読み手：森住 啓子さん (読み聞かせグループかぶとむし)	文 新美 南吉 絵 黒井 健
印象に残った場面	・男性がごんを撃った場面。　・食べ物をくれるところ。 ・ごんが兵じゅうのために、栗や松茸をこっそり持ってきた場面。 ・魚をくわえたところ。	
色づかい レイアウト	・結構暗めのイメージが多かった。　・いい。　・黒い色。 ・柔らかいタッチで描かれていた。	
感想・意見等	・ごんは自分がしてしまった過ちを少しでも良いことをして返していたが、男性はそれに気づかず最後にごんを撃ってしまい、悲しく切ない話だなと思った。 ・いい話と思った。　・最後むごいと思った。　・きつねがかわいかった。 ・ごんが撃たれたシーンがとても辛く感じた。 ・昔見たことがあるけれど久々に見たら切ない話だった。	

以上のようなワークシートの記述が、生徒達の思考のプロセスから生まれ、学習の記録として留めることができた。絵本作品への理解や気づきから表出したヒューマニティやナチュラリティといった社会性が人間性を育み、引いては、その体験が自己効力感の獲得に繋がったことであろう。

4 成果

名作と呼ばれる絵本童話に触れ、主人公や登場人物の生き方を追体験したり、心情に共鳴したりすることで感性を揺さぶるひとときとなった。また、この読み聞かせの時間は、生徒が幼少期に満たされていなかった母性へのフラストレーションを補うための授乳的時間ともなり、深く精神世界に入り込む作品鑑賞の時間となった。それらの取り組みが、自身への探求に心のベクトルが向いて行ったに違いない。

5 今後の課題

次年度は、生徒達自身の「内なるファンタジー」に視点を持たせ、「創作絵本」の製作にチャレンジさせたいと考える。各々の作品を、グループワークで、そしてホームルーム全体で対話によるセッションを行い、その対話によって「気づき」を分かち合うような絵本探求授業を試みたいと考える。生徒達はおそらく、他者との「気づき」の違いに新たな視点の発見に面白味を感じてくれたり、意味や価値を見出してくれるのではないかと考える。

② 徳島中央高等学校定時制課程夜間部

○読み聞かせ体験授業

1 目的・ねらい

本校の生徒には人間関係をうまく構築することが苦手な生徒が少なからずおり、その背景には、自己肯定感が低く自己を認識することや他者の心情を適切に推測することができないという特徴がある。読み聞かせの体験をすることは子どもの感受性を豊かにしたり、想像力を高めたりする効果があり、読み手から聞き手に対して好感情を伝達する良い手段であるともされている。

生徒たちは評論文や随想などよりも物語文を好み、積極的に取り組もうとする傾向が見られる。また、小学校・中学校時代に読み聞かせの授業を体験し、そのことを良い思い出として記憶しているものもある。そこで「絵本の読み聞かせ」授業を受ける中で、生徒たちが絵本の世界を追体験して想像力を向上させ、他者の心情を適切に推測する能力を身につけること、それに加えて、穏やかな気持ちで自分自身を見つめる機会とすることによって自己肯定感を高めることをねらいとする。

2 内容

国語科の取組として夜間部生徒を対象に「絵本の読み聞かせ」授業を行った。講師（2名）は「とくしまお話を語る会」に依頼した。

3 取組

読み聞かせのアンケートを1番最初と最後の2回実施し、絵本の読み聞かせ授業を行ったことでの変化を調査した。

使用図書は次のとおりである。

第1回 11月14日 1限目 1・2年生

どんぐりころちゃん（わらべうた）	
1 富士山うたごよみ「立冬」	（短歌・文）俵万智 （絵）U.G.ホー
2 だいくとおにろく	（再話）松居直 （絵）赤羽末吉
かきかきいくつ（わらべうた）	
3 きょうのごはん	（作）加藤休ミ
4 ウェン王子と虎	（作・絵）チェン・ジャンホン （訳）平岡敦
5 ねんね（写真絵本）	（作・絵）さえぐさひろこ



第2, 3回 12月17日 1限目・2限目 全学年

たぬきさんたぬきさん（わらべうた）	
1 せんべせんべやけた	（案）こばやしえみこ （絵）ましませつこ
2 すてきな三にんぐみ	（作・絵）トニー・アンゲラー （訳）今江祥智
3 女王さまのぼうし	（作）スティーブ・アントニー （訳）せなあいこ
4 あかちゃんてね	（作・絵）星川ひろこ 星川治雄
5 しげちゃん	（作）室井滋 （絵）長谷川義史
1 ケーキになあれ！	（作）ふじもとのりこ
2 ぐりとぐらのおきやくさま	（作）中川李枝子 （絵）山脇百合子
3 こびとのくつや（グリム童話）	（画）バーナデット・ワッツ （訳）佐々木田鶴子
4 雪の結晶（しかけ絵本）	（文）ジェニファー・プレストン・シュシュコフ （絵・しかけ）エフゲニア・イェリヤツカヤ
折り紙でクリスマスツリー作成（工作）	



第4, 5回 1月11日 1限目・2限目 全学年

こすれこすれ (わらべうた)	
1 おしくら・まんじゅう	(作・絵) かがくいひろし
2 ねこのさくら (らくごえほん)	(作・絵) 野村たかあき (監修) 柳家小三治
3 ふたりのあさごはん (ペープサート劇)	
4 トンちゃんってそういうネコ	(作・絵) MAYAMAXX
5 マルーシカと12の月	(作) かのゆうこ (絵) たなか鮎子
6 だるまさんが (大型絵本)	(作) かがくいひろし
読み聞かせ体験	



読み聞かせの授業 アンケート

()年 氏名()

それぞれの質問について、1～5の中から自分に当てはまるものを選び、回答らんに数字で答えてください。

	5	4	3	2	1	一回目	最後
読書について	読み聞かせの授業をとおして本への興味が広がり、好きなジャンルだけでなくいろいろな本を読んで楽しんでいる。	読み聞かせの授業を受け、マンガや絵本以外の本も読んでみたいと思うようになった。	読み聞かせの授業を受け、絵本に興味がわいてきた。	機会があれば、絵本やマンガを読んでみたいと思う。	小説やエッセイ、絵本以外にマンガも読むことがない。	2. 3 1	2. 6 9
興味・関心について	読み聞かせの授業を楽しく受けることができ、登場人物の気持ちに共感したり、自分の生活と結びつけて考えたりすることができた。	読み聞かせの授業を楽しく受けることができ、好きな場面など自分なりの感想をもつことができた。	読み聞かせの授業を楽しく受けることができた。	読み聞かせの授業をまあまあ楽しく受けることができた。	読み聞かせの授業は退屈であった。	2. 6 9	3. 0 6
コミュニケーション能力について	聞いた話から感じたことを誰かに伝えることができる。	授業の間きちんと話を聞き、自分が楽しく聞いていることも態度で伝えることができた。(拍手を送る、おもしろい所では笑うなど)	授業の間、顔を上げて講師の先生の話をきちんと聞くことができた。	先生に起こされたり注意をされたりすれば、授業の間講師の先生の話を聞くことができた。	授業の邪魔をしたり、または講師の先生の話を聞いていなかったり寝てしまったりした。	2. 8 8	3. 0 6
授業への参加・積極性	自分から行動し積極的に活動(授業)に参加することができ、周りの生徒とも協力することができた。	自分から行動し、積極的に活動(授業)に参加することができた。	積極的にではないが、活動(授業)に参加することができた。	先生から促されたり話しかけられたりすれば活動(授業)に参加することができた。	ほとんど活動(授業)に参加をしなかった。	2. 8 8	3. 4 4

生徒の感想

中央高校で何度も読み聞かせをしてもらって、これで最後と思うととてもさみしいです。ずっとふれてなかった絵本の懐かしさやあたたかみを思い出させてくれ、毎回とても楽しい時間でした。

読み聞かせで聞いているだけの時よりも、自分たちで読んだときの方が主人公の視点に立ってストーリーを体感しやすく、世界に入っていくやすいと思いました。

楽しかったです。自分で絵本を読んだときは緊張したけれどがんばることができてよかったです。

普段は読むことのない絵本をたくさん聞けて、知れてよかったです。

絵本は自分的に文章が多いものより絵がお気に入りの本を見る方が楽しいと思った。

「いるの いないの」という怪談の絵本を読んで、絵本に怪談絵本というジャンルがあることを初めて知りました。絵本によって絵のタッチも異なりいろいろな本を知れてよかったです。

4 成果

初回の頃から絵本の読み聞かせの授業に介しておおむね好意的ではあるものの受動的でもあった。昔遊びや手遊び、一緒に歌を歌ったりといった場面では恥ずかしそうにしている者が多く見られた。ただ、回を重ねるごとに聞く態度に意欲が見られはじめ、読み手の呼びかけや同意を求められた際に応えたり、頷いたり、の反応があり講師先生にも喜ばれた。生徒の中には表情が柔らかくなっていった者もいた。また、明日は読み聞かせの授業があると生徒に伝えると喜ぶ姿もあり、楽しみにしているのだと感じさせられた。

読み手が聞き手の表情を見ながら、気持ちを考えながら話す言葉には、大きな力がある。上手く読めるようになれば自尊心が生まれ、それを聞いている方には読んでくれている人へ信頼が生まれる。読み手と聞き手の絆をつくる良い機会になったと捉えている。このことについて、ある先生からは「君たちも近い将来、親となる。子どもを寝かしつける際に絵本の読み聞かせを是非してほしい。そのときに臨場感を持たせるとか、声色を変えるとか、絵を見て感想を訊くなど、今回学んだことを活かしてほしい。」と伝え、当時ニュースになった虐待事件を引き合いに出し「家庭とは」「親子の絆とは」「コミュニケーションとは」「読み聞かせで生まれる安心感や信頼について」の話をしたとき生徒は神妙な顔つきで聞いていた。

読み聞かせの授業後の光景では、読み聞かせをしてもらった絵本について、生徒間で会話の端にのぼることがあった。絵本の世界に対する感想や感動を自分の中で持つことが出来ているのは、国語教育の観点からも喜ばしいことだと感じた。また、生徒自身の将来像と重ねて、絵本の読み聞かせを仕事に必要なスキルと認識しながら聞いている生徒もいたことやアンケートの結果から、自分自身を見つめる機会としては一定の効果があったと思われる。

最終回となった1月には学校全体の行事として授業を行った。この日は、講師の方の読み聞かせに加え、2名の生徒に全体の前で読み聞かせをする体験をしてもらった。読み聞かせ体験をした生徒らは上手に役割をこなし、終わったときには拍手と賛辞を受け、照れくさそうにしていたが、自己有用感を持った瞬間と見受けられた。その後絵本選びと読み聞かせ実習を行ったのだが、概ね生徒主体でそれぞれをこなすことができ、読み方にも工夫をこらそうといった意欲が見て取れたので、積極性と表現力の向上が感じられた。また、聞く側の生徒達もそれまでの授業と比べしっかりと前を向いて耳を傾けていたため、こちらに関しても積極性の向上が感じられた。

5 今後の課題

本年度「絵本の読み聞かせ」授業を実施し、生徒たちの成長を目のあたりにした。この取組を継続することで生徒たちの更なる成長につなげたい。そのため、生徒に自ら絵本を選ぶ機会を設け、積極的に参加しているという意識を持たせたい。そして生徒自身が絵本を読む時間を増やすことも検討したい。

③ 富岡東高等学校定時制課程

○購入図書について

1 目的・ねらい

本校定時制には、ソーシャルスキルが不足していることが一つの原因となり、他校から転編入や再受検した生徒や、中学時代にいじめ等にあい長期欠席していた生徒がおり、学力にも生活面にも不安を持つ者が多い。

さらに、本課程から大学や専門学校等の上級学校へ進学する生徒はまれであり、生徒は上級生が大学へ進学するの見聞きした例が非常に少ない。

このようなことから、大学のＡＯ入試や推薦入試に関する図書を購入し、対象生徒に対する対応に活用する。生徒が進学準備をし入試を受験することで、様々な成功体験を重ねることがある。それらを通じて、ソーシャルスキルの向上を図る。

2 内容

次の図書を購入した。

大学入試ＡＯ・推薦入試をひとつひとつわかりやすく（G a k k e n）

3 取組

本年度は、一人の生徒が、短期大学のＡＯ入試を受験し、進学することとなった。その準備に際して、購入図書を利用して、生徒の受験指導にあたった。

4 成果

上級生が大学や専門学校等の上級学校へ進学するのを見聞するのが少ないという環境の中、購入図書の利用もあり、短期大学のＡＯ入試に合格することができた。

5 今後の課題

今回の購入図書を利用して、大学進学時の直接的かつ具体的な対策に当たることができた。しなしながら、生徒ひとり一人の基本的資質に関して、ソーシャルスキルが不足している、自己肯定感や自己有用感が低い、学力が弱いなど、高校卒業後の進路を考えるにあたり、一人の生徒が複数の問題を抱えている場合が多く、さまざまな支援を複合的に継続していかなければならない。

④ 鳴門高等学校定時制課程

○ヨガ教室について

1 目的・ねらい

深い呼吸法や正しい姿勢を学ぶことで、精神の安定を図り、よりよい社会生活への態度を育成するための講習会を7回開催する。

2 内容

ヨガインストラクターの方を招き、心身の健康を理解し実践することを目指し、ヨガ体験を実施する。正しい呼吸法や姿勢、様々なポーズにも挑戦し、心と体のつながりを実感し、心身の緊張をほぐし、心の安定や安らぎを得る。

3 取り組み

ヨガインストラクターの方の指導の下、腹式呼吸や姿勢づくりを通して心身の健康に寄与する。自分の体を思うように動かすことと、そのズレ（客観的に見るとそうっていないこと）に気づき、補正していくことでバランスのとれた心と体のつながりを実感し、心身の緊張をほぐし、心の安定や安らぎを得る。今年度は受講生徒が全員女子であるという点を考慮して、女性が興味関心を持ちやすい「美」をテーマに、美容や健康に効果のある内容を重点的に指導してもらった。プロの「技」を実際に見て、学び、実践させ、よりよい社会生活への態度を育成する。

4 成果

全員が初めてヨガを体験することもあり、興味と不安を併せ持っていたが、講師の方の的確なアドバイスや声かけにより、前向きに取り組めるようになった。正しい姿勢や呼吸法を行うと、普段の生活では使わない筋肉を使っているということを実感することができていた。また、回数を重ねるうちに、次第にポージングがうまくなってきた。体を動かす楽しさや、呼吸法の重要性を全身で感じることができ、心と体のつながりを学ぶことができた。

5 今後の課題

ヨガを指導する際は、非常に専門的な知識や技術が必要であり、講師不在時の授業展開や指導に難しさを感じた。動画や市販DVDなどを適宜取り入れていくことはもちろんであるが、担当教員の知識や技術向上も必要であると考えた。

平成30年度 総合的な学習の時間 外部講師 来校表

ヨガ教室…講師 yoga feel 吉田 有美 さん

平成30年

- 6月14日(木)(ヨガとは, 姿勢, 呼吸法)
- 6月28日(木)(ウエスト, 腹筋群に効くヨガポーズ)
- 9月27日(木)(背中, 二の腕に効くヨガポーズ)
- 10月11日(木)(美脚, 下半身に効くヨガポーズ)
- 10月25日(木)(小顔, 美肌, ホルモン系に効くヨガポーズ)
- 11月 8日(木)(美姿勢, 猫背解消に効くヨガポーズ)
- 11月25日(木)(太陽礼拝とリラクゼーションポーズ)



○ウエイト・トレーニング教室について

1 目的・ねらい

筋力を上げることにより, 体力の向上を図り, よりよい社会生活への態度を育成するための講習会を7回開催する。

2 内容

パーソナルトレーナーの方を招き、ウエイト・トレーニングを通して心身の健康の保持増進を目指す。正しい方法でそれぞれの部位に負荷をかけ、筋力向上につなげる。また、変化のわかりやすい大きな筋肉のある部位を重点的にトレーニングすることにより、自らの身体の変化を実感する。そのことにより自信を深め、明日への活力となることを期待する。

3 取り組み

パーソナルトレーナーの方の指導の下、ウエイト・トレーニングの種類、正しい方法について学ぶ。前半は、トレーニング自体を理解することに重点を置き、正しい方法や動きを身につけることに時間をかける。後半は、前半で学んだ知識を実践するため、各自、鍛えたい部位に応じたトレーニングを選択し、体力向上を目指す。プロの「技」を実際に見て、学び、実践させ、よりよい社会生活への態度を育成する。

4 成果

パーソナルトレーナーをしている講師の方から、ウエイト・トレーニングの種類、正しい方法や知識を直接教えていただいた。闇雲に負荷をかけ、回数をこなすような従前のやり方ではなく、適切な負荷をかけると同時に、呼吸やリズム、ペースなどを重視しながら実践することが長続きのコツだということを教わった。生徒の中には、自身の身体の変化を感じることができた者もあり、やれば必ず成果が出るということを学ぶことができた。毎時間意欲的に取り組むことができていた。

5 今後の課題

週に一度だけの取り組みでは、目に見えた変化が感じられない生徒もあり、ウエイト・トレーニングで使用した機械を用いなくともできる、日常生活におけるトレーニング方法や食事法などの指導もできればよかったと感じた。

平成30年度 総合的な学習の時間 外部講師 来校表

ウエイト・トレーニング教室…講師 パーソナルトレーナー 増原 直行 さん

平成30年

- | | | |
|-----------|--------------|---------------------|
| 6月14日(木) | (上肢のトレーニング①) | ベンチプレス) |
| 6月28日(木) | (下肢のトレーニング①) | ハーフスクワット) |
| 9月27日(木) | (上肢のトレーニング②) | ベンチプレスMAX測定プッシュアップ) |
| 10月11日(木) | (上肢のトレーニング③) | 懸垂・ベントオーバーローイング) |
| 10月25日(木) | (下肢のトレーニング②) | フルスクワット) |
| 11月 8日(木) | (上肢のトレーニング④) | ベンチプレス・ダンベルベンチプレス) |
| 11月25日(木) | (上肢のトレーニング⑤) | 懸垂・デッドリフト) |



○ギター教室について

1 目的・ねらい

楽器演奏を通して、音感・リズム感・協調性を養い、よりよい社会生活への態度を育成するための講習会を7回開催する。

2 内容

四国大学短期大学部音楽科助手の方を招き、ギター演奏を通して新たな自己表現の方法を見出すと同時に、音感・リズム感・協調性を養う。演奏することの楽しさを体験することを通して、音楽やギターに関する興味関心を養い、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性が豊かになることを期待する。

3 取り組み

四国大学短期大学部音楽科助手の方の指導の下、ギターの各部の名称やチューニングの仕方、単音で「ドレミファソラシド」を弾くことから開始する。次に、コード（和音）やアルペジオ、ストロークなどの奏法の練習をし、徐々に曲を演奏する知識や技能を身につける。また、プロのアーティストとしても活動されている講師の方による生演奏を鑑賞し、様々な音響機材を用いた本格的なレッスンを受ける。プロの「技」を実際に見て、学び、実践させ、よりよい社会生活への態度を育成する。

4 成果

大半の生徒がギターに触ったこともないような状況でスタートしたが、現在では多くの生徒が楽曲のテンポを遅らせることで演奏できるようになり、上達する喜びを感じている。講師の方から演奏の知識や技術を教わっただけでなく、それぞれのコードの持つ響きを、生徒が連想しやすい情景などで説明し、イメージさせてみるなどの貴重な表現活動ができた。音楽の持つ奥深さや表現することの豊かさと楽しさを、ギターを通して味わうことができた。

5 今後の課題

生徒の中には、コードを押さえたり覚えることが困難な者もあり、そのまま無理に教え込まずに、簡略化するなどして対応していくことも必要だと感じている。また、技術面の指導に終始するだけでなく、ギターで情緒豊かに表現することも伝えたいと感じた。

平成30年度 総合的な学習の時間 外部講師 来校表

ギター教室…講師 四国大学音楽科助手 楠本 宏志 さん

平成30年

- 6月14日（木）（講師紹介、Em・Am・Cコード練習）
- 6月28日（木）（講師によるギター演奏の鑑賞、
Em・Am・C・D・Gコード練習）
- 9月27日（木）（『Stand by me』コード練習）
- 10月11日（木）（『Stand by me』ギター演奏練習）
- 10月25日（木）（『Secret base～君がくれたもの～』
『ヒカリへ』ギター演奏練習）
- 11月 8日（木）（『ヒカリへ』『チェリー』ギター演奏練習）
- 11月25日（木）（『ヒカリへ』『チェリー』ギター演奏練習、
A～Gのコードの特徴紹介）



○プログラミング教室について

1 目的・ねらい

指示と動作の関連性を理解し、筋道を立てて物事を考える力を養い、よりよい社会生活への態度を育成するための講習会を7回開催する。

2 内容

プログラミングスクールの講師の方を招き、プログラミング未経験者を対象に、プログラミング言語Scratchを導入することで、生徒にとって興味が持ちやすく、理解しやすい内容のものを学ぶこととする。プログラムの基本的な構造に始まり、繰り返し処理や条件分岐、変数、クローン等の新しい事項を徐々に取り入れ、それをを用いた簡単なゲームの作り方を学習する。

3 取り組み

プログラミングスクールの講師の方の指導の下、プログラミング言語Scratchを用い、命令が割り当てられたブロックを組んで、サンプルプログラムを構築する。さらにできあがったプログラムを改変して動作を確認する。思い通りに動かない場合はサポートをしながら、簡単な練習問題に取り組み、知識の活用と定着を図った。プロの「技」を実際に見て、学び、実践させ、よりよい社会生活への態度を育成する。

4 成果

講師の方の詳しく丁寧な説明を聞くことができ、プログラムが思い通りに動かない（バグがあった）場合も修正することができた。また、講師の方の説明は、初めて学ぶ生徒達に対してよく配慮されており、わかりやすいと好評であった。5人中4人の生徒が、アンケートに、今後何かゲームを作りたいと回答した。

5 今後の課題

プログラミングに欠かすことのできない変数、条件分岐等の演習が時間不足となり、自力でゲームを作るまでには至らなかった。一からゲームを作るのではなく、サンプルプログラムを改良するなどの演習を繰り返しながら、さらにスキルを向上させていく必要があると感じた。

平成30年度 総合的な学習の時間 外部講師 来校表

プログラミング教室…講師 クリッププログラミングスクール 江本 大輔 さん

平成30年

- 6月14日（木）（講師紹介、プログラミング言語Scratchの操作方法）
- 6月28日（木）（プログラムの仕組みを知ろう 追いかっこゲーム）
- 9月27日（木）（乱数について もぐらたたきゲーム）
- 10月11日（木）（変数について① 計算ゲーム）
- 10月25日（木）（変数について② サッカーゲーム）
- 11月 8日（木）（クローンについて 弾幕シューティングゲームの製作）
- 11月25日（木）（クローンについて 前回の続き）



⑤ 池田高等学校定時制課程

○地域や人と関わる活動・アクティブラーニング等について

1 目的・ねらい

地域の方々との関わりや協働的な活動により問題解決能力やコミュニケーション能力の育成を図るとともに、自尊感情の醸成や健康で安定した身の維持を目指す。

2 内容

校内の活動では探究活動の発表準備や文化祭のパフォーマンスの練習、通常の授業でも協働的な活動等を意識的に取り入れる。校外においては地域貢献活動、保育実習等の交流活動を実施することで、対人関係を円滑に運ぶためのスキルの向上を図る。また、音楽に関する活動や体力増進講座等を通して、自分と向き合わせ豊かで強い心身や自尊感情の醸成に繋げる。

3 取り組み

- ◇協働的な活動（文化祭パフォーマンス、地域を知る学習発表会、ホームルーム活動）
- ◇保育実習（読み聞かせ講習）、ボランティア体験イベント参加
- 地域活動「池定・地域まもり隊」（地域の清掃・しめ縄作り・防犯パトロール・被災地支援）等
- ◇芸術・音楽に関する活動及び体力増進（近隣施設での美術作品展示・体力増進講座、スクールソングプロジェクト）等

4 成果

文化祭や発表会では協力や相談が必要な場面を多く提供できた。ホームルーム活動は全学年合同で学年混合のグループを設定し、様々な意見をまとめたり共感する中でコミュニケーション能力等の育成を図ることができた。

本年度「池定・地域まもり隊」は、「ボランティアスピリットアワード」（西日本地区）や「まなぼうさい活動賞」（県知事表彰）などを受賞し、外部から評価を得たことで生徒の自信や達成感に繋がったと考える。

体力増進講座の実施後アンケートでは「体力増進の機会になった」：100%、「運動の大切さが理解できた」：94%であり、感想では「自分の体調や体力に日頃からもう少し気をつけて何かを始めたい」などの前向きな意見が見られた。

※学校評価アンケート結果

質問 【学校行事に積極的に参加できましたか。】 肯定的評価%→	H30	H29	H28	H27
① 遠足	89	89	83	88
② 学燈祭（文化祭）	79	79	79	83
③ 校内球技大会	100	95	78	92
④ 定通連美術作品展作品制作	100	84	67	88
⑤ 「池定・地域まもり隊」の防犯パトロールや地域での清掃活動	95	84	61	79
⑥ 「地域を知る学習」	95	79	78	75
⑦ 「被災地支援活動」（マープリングうちわの作成）	95	74	67	83

5 今後の課題

高校生活についてのアンケート「学校の中で皆の役に立っているか」「自分のことが好きか」に対して肯定的評価は 37%と 32%であり、昨年度より少し増加したが、依然として低い。活動を拡充することは難しいので、振り返りとフィードバックの方法を工夫して前向きな自己認知を促す必要がある。